

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 長期金利動向に影響しそうなイベントは？

2021年4月5日

米長期金利動向をにらみながらの展開が続いています。イースター明けに再び長期金利上昇の流れが続くかどうかが焦点に。そうした中、注目される材料が、7日の米FOMC議事録(3月16日、17日開催分)と、8日のパウエルFRB議長によるIMF(国際通貨基金)スプリングミーティングでのパネルディスカッション参加です。

まずはFOMC議事録から。3月のFOMCでは政策金利(FF金利誘導目標)を現行の0.00%-0.25%で据え置くことを決定。量的緩和についても現状を維持しました。FOMC参加メンバーによる経済見通し(SEP: Summary of Economic Projections)では、2021年の経済成長見通しを前回12月発表時の4.2%から6.5%に大きく上方修正。物価見通しについても前回の1.8%から2.4%に大きく引き上げられました。一方で政策金利見通しについては2023年末まで現行水準を維持する見通しを示しています。

各メンバーの政策金利見通しをドットで示したドットプロットでは、前回17人中5人のメンバーが2023年までの利上げ見通しを示していたのに対して、今回は18人(12月18日にウォラー理事が就任したので1名多い)中7人が利上げ見通しを示しました。利上げを見込めたメンバーが増えているとはいえ、11名が据え置き見通しを示しています。

物価の上昇については、一時的にインフレターゲットである2.0%を上回るものの、来年にはターゲット近辺に落ち着くとの見通しを示しています。

経済成長が顕著となり、物価もターゲットを超えて上昇するものの、これまでの超緩和的な姿勢を維持するという姿勢が改めて示された格好となった3月のFOMCについて、議事録でどのような議論の下にこの姿勢が示されたのかなどが示されるかが注目されます。緩和姿勢維持が強調されると、インフレ期待の拡大から長期金利の上昇要因となりドル高に繋がります。

また、声明では量的緩和について、現状の月額1200億ドルを維持し、FRBの2大命題である雇用の最大化と物価のターゲット2%前後での安定にむけて、一段と顕著な進展があるまでペースを維持すると、これまでの姿勢を再度表明しました。

議事録ではこの一段と顕著な進展という部分に対する議論なども注目される。利上げの前に実施されると見られる量的緩和の縮小(テーパリング)に向けたヒントがあるようだと、長期金利のさらなる上昇につながる形でのドル買いが広がる可能性があります。

続いて、パウエルFRB議長参加のパネルディスカッションについて。

8日(日本時間では9日午前1時)に実施されるIMFによるパネルディスカッションは、米CNBCの人気番組「クロージングベル」の司会者であるサラ・エイセン氏がモデレーターとなり、パウエルFRB議長、ドナフ・ユーログループ議長(アイルランド財務相)、オコンジョ=イウエラWTO(世界貿易機関)事務局長、ゲオルギエヴァIMF専務理事という豪華な顔ぶれで行われます。

テーマは「国際経済についてのディベート」。新型コロナウイルスの感染拡大からの世界的な経済の回復について、米、ユーロ圏、主要国際機関、それぞれのトップからの意見が述べられるということで注目を集めるものとなっています。

米国が順調な経済の回復を進めているのに対して、ユーロ圏は新型コロナウイルスの感染第4波や、ワクチン接種の遅れなどが指摘される状況となっており、パウエル議長とドナフー議長の間での温度差が強く見られるようだと、ドル買いが広がる可能性があります。

また、オコンジョ＝イウェエラ、ゲオルギエヴァ両氏から新興国経済の回復遅れなどが強く指摘されると、リスク警戒からのドル買いを誘う可能性もあり、相場への影響が意識されるどころです。

また、各人から世界的にみられる長期金利上昇についてのコメントが出てくるのかにも注目です。とくにユーロ圏については、ECBが長期金利上昇を抑制する姿勢を3月の理事会で示していただけに、政府側のトップの一人であるドナフー・ユーログループ議長の発言が気になるどころ。

パウエル議長は長期金利上昇について静観するこれまでの姿勢を崩さないと見られることから、ドナフー議長の発言次第では、米国とユーロ圏の金利差拡大の思惑からのドル買いが広がる可能性も。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。